

**選定理由**

県内の産地が局限される上、本種の分布北限線に位置し、個体数が少なく、環境の悪化や採集による減少の恐れがあるため。

**存続を脅かす要因**

産地局限、植林伐採、採集圧

**分布状況**

県内では北部の1カ所（津山市，2021年7月に筆者が確認：写真）。国内では本州（千葉県以西・伊豆諸島）・四国・九州・琉球列島（沖縄島以北）、国外では中国・台湾・南アジア・東南アジア。太平洋側の温暖多雨地には普通だが、瀬戸内地域や、より北方では希で、県内生育地は分布北限線の一郭である。



撮影：山下 純

**生息状況**

葉長2mを超えることもある大形の多年生シダ植物。孢子繁殖のほか、太く短く這う根茎が分枝して栄養繁殖する。常緑性だが冬に寒い所では葉が枯れる。葉身は鳥足状に分岐し、最下羽片とその後側第1小羽片が葉身上部と同様の羽状分岐をすることで全体五角形状となり人目を惹く。ニホンジカの不嗜好性植物。県内生地はシカの被食の影響が強い地域の暖温帯のスギ植林床で、湧水に沿った数mの範囲に、様々なサイズの10株程度が他の不嗜好性植物とともに生育し、大きい葉は170cmに達する。2022年1月の時点で葉が全て枯れていたが根茎は生きていた。兵庫県などでは被食から免れる本種の増加傾向が知られており、本県でも今後の推移が注目される。

**主要文献**

海老原（2016）

（山下 純）